

令和5年2月25日（土）

協働のまちづくり活動支援事業報告会を開催しました！

■ 開催の主旨

市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、NPO・市民活動団体等と市民の皆さんとの交流と地域コミュニティの再生や住民主体のまちづくりを考える機会として、市が支援した協働のまちづくり活動支援事業の成果発表となる令和4年度報告会を実施しました。

1 日時・場所

- ・令和5年2月25日（土） 午後1時00分～3時00分
- ・市民交流施設ぷらっと（江別市東野幌本町6番地43）

2 プログラム

●協働のまちづくり活動支援事業の事例報告

報告団体（報告順）

- ①えべつあそび場創造プロジェクト
- ②えべつ1/1会

●事業報告会コメンテーター



（写真左から）

- 新田 雅子 氏（札幌学院大学 人文学部人間学科 准教授）
内海 信雄 氏（江別市自治会連絡協議会 会長）
栗田 敬子 氏（特定非営利活動法人エコ・モビリティ サッポロ 理事長）

●各団体の事業報告及びコメンテーターの質疑・コメント（概要）

① えべつあそび場創造プロジェクト

「イベント会場に子供たちのあそび場を」



〈新型コロナウイルスの影響について〉

開催時の取り組みについて、あそびの会ではこれまでもマスク着用、手指消毒、来場時の検温を行ってきたが、それに加えて参加者名簿に電話番号の記入欄を追加し、感染発生時の連絡先を得た。

おもちゃは間隔を空けて配置し、子どもが密着しないようにした。

飲食の際は別会場を利用、テーブル上の仕切りを利用し、対面で座らず間隔を十分取った。

会自体の開催については、緊急事態宣言およびまん延防止と重点措置の適用期間が今年度は無かった為、新型コロナウイルス流行が要因の中止は行わなかった。

〈事業報告〉

本事業の対象となるイベントと、それから参加人数の実績を、共催団体ごとにまとめて報告する。

・えべつここからつながる支え合いアクション（略称 ここからえべつ）10円バザーと食品配布会（区画整理記念会館）

開催日	7/31	8/28	9/25	10/30	11/27	12/25	1/29
参加者数	40名	47名	42名	58名	38名	34名	61名

明日（2/26）も開催

・ ea.st (イースト) ワンダフルフェス

開催日等	8/20 (かくやま)	10/22 (かくやま)	9/17 (ココルク)	10/2 (ココルク)
参加者数	50名	53名	36名	130名

・ ココルクえべつ

開催日等	7/16 (海の日キャンペーン①)	7/17 (海の日キャンペーン②)	9/17 (子ども食堂)
参加者数	21名	44名	17名

【参加者の声】

- ：子どもたちが自由な発想で遊べるのが良い。
- ：格安でくじ引きや型抜きを楽しめた。パズルや塗り絵、ボードゲームで大人も楽しめる 等
魅力のあるコンテンツ

という評価をいただいた。

【イベント主催者側からの評価】

今年度の事業対象外の事業者からあそびの会開催の打診をいただき、別途、札幌でもあそび場を設け、高い評価を得た。

【新たな取組が達成できたか】

☆大人向けイベントでの子どものあそび場展開として、イーストのフラワンダフルフェスでは縁日コーナーを設け、おもちゃで遊べるコーナーのほかに、くじや型抜きを出来る場を設けた。

☆周囲に合わせた、あそび場としては新しいスタイルの展開により、満足してもらえるイベントに出来たと思う。

☆「追いミルクえべつキャンペーン」という酪農家応援キャンペーンに協力して、江別市から提供されたパック牛乳を来場者へプレゼントする取組も実施でき、当イベントがプレゼント会場に選ばれたのは嬉しく、市の活動にも役立てたと思う。

☆「ここからえべつ」では、大人が買い物をしている間に子どもたちがおもちゃで遊ぶスタイルが定着してきている。今年度は会場のレイアウトを見直して、大人と子どもの交流が図れるよう工夫した。

☆ココルクえべつで開催された海の日キャンペーンでは、プール遊びや縁日コーナーを担当し、子ども食堂開催時は、会場でたくさんのおもちゃで遊んだ後、ご飯を貰って帰るという流れを作り、どちらのイベントも楽しんでいただけた。

【その他の取組：他団体との連携】

連携1

児童発達支援・放課後デイサービス POP-POP

子どもたちが楽しめる空間を作りたいという目標の元、あそびの会の手伝いに来て、支援スタッフが手法を学ぶ。

えべつあそび場創造プロジェクト

子どもたちとの接し方について
学生メンバーのお手本となっている。

win-winの関係
⇄

連携2：江別市地域おこし協力隊

◎現在は、あそびの会をサポートする立場だが、来年度はイベントを共催する予定で、市内の大学生もメンバーとして参加している。

→これまでより多い大人で参加者への対応ができるようになった。

◎学生メンバーにとっても、子どもとの関わり、保護者との会話、社会人メンバーの対応から学びを得る機会となっている。

【収支決算】

収入

当初予定：15万3,000円

※支出増に伴い、自己負担が増加

合計

18万1,443円

支出

◎おもちゃ

当初予定：11万円

※予定に無かった縁日コーナー用のくじ等を購入

13万1,443円

◎保険加入

事業対象期間外に加入したため、当初予定の2,000円は使用しなかった。

◎コーヒー代

概ね予定通り9,419円

◎広告費（トナー代）

1,530円

◎その他：縁日用のタープテント購入等

47,170円

支出合計：18万9,562円

◆ 質疑応答

Q：内海委員

継続事業なので、相当数の利用者があり、事業として成功していると思う。大人数の来場者の管理はどのようにしているのか。子どもが対象で、学生のボランティアも導入しているので、事業全体にあそプロとして目が行き届いているのか、詳しく教えて欲しい。

A：えべつあそび場創造プロジェクト

各イベントの参加者総計数は相当な人数になるが、イベント内のコーナー利用は滞在時間が短いのが特徴で、主催者として大人数は必要ではない。社会人・学生で平均7-8名で進めている。また、共催相手、とりわけ「ここからえべつ」の場合は、バザー事業で数十名の大人がいるため、こちらの手が足りない時のフォローをお願いしている。

Q：内海委員

角山でのイベントのような広い野外では、どのような状況なのか。

A：えべつあそび場創造プロジェクト

フラワンドラフフェス in かくやまの場合は、大きなイベント内の1つのコーナーという扱いで、タープでエリアを区切り、その内部で縁日コーナーを開催していた。また、おもちゃで遊ぶコーナーは、ジンギスカン小屋の中という限られたエリアで実施し、目の行き届いている状況を確認した。

Q：栗田委員

今年度は、学生やお手伝いの方の参加があったようだが、参加されるスタッフへのマニュアルは、準備してあったのか。

A：えべつあそび場創造プロジェクト

マニュアルは用意をしていない。手伝いのメンバーには、何々をしてくださいという伝え方ではなく、一緒に遊んでくださいとしか言っていない。

その場で遊ぶ子どもたちに対して、家では怒られるような遊びでもここでは可能な場として設けている。主催者も一緒に遊ぶというマインドでやるのが、子どもたちにとって一番楽しめることになっていると思うため、“あなたは何係です”というのは、極力決めないようにしている。そのような対応をしていると学生などは、自ずと立ち位置を見つけて適応している。

Q：栗田委員

理念を伝えて、あとは自主的に活動する手法ということによいか。

A：えべつあそび場創造プロジェクト

当初からその予定であったわけではなかったが、結果として良かったと思っている。

Q：栗田委員

今後、理念をメインとしたマニュアルを作る予定はあるか。

A：えべつあそび場創造プロジェクト

現状のとおり、実施の場を見て吸収してもらいたいと思う。

Q：栗田委員

もう1点、予定外購入のタープが5万弱と高額だったが、レンタル等、購入以外の方法は検討しなかったのか。

A：えべつあそび場創造プロジェクト

レンタルでもある程度費用は掛かると思った。また、自家用車で運べるものという条件で探したため、購入という選択肢になった。結局、今年度で4回使用したため、適切な判断だったと思う。

Q：新田委員

この事業は4年間継続し、子ども・保護者たちにも受け入れられ、他団体との連携も進み、まさに協働のまちづくり活動が広がっている状況と見受けるが、来年度以降は補助金を使わない方向で検討しているのか。

A：えべつあそび場創造プロジェクト

協働のまちづくり事業には来年度は申請しない方向で考えている。4年間で、備品等は十分確保した。今後は独力で事業を継続していく予定。

他団体との連携も、金銭的負担はできるだけないように切り替えていく考えでいる。

Q：会場

あそび場に来ている子ども同士、またはその親同士といったイベント外で継続するような人間関係が作られているということはあるのか。

A：えべつあそび場創造プロジェクト

スタッフと継続利用者との交流はあるが、参加者同士での交流が深まっている事例は把握していない。

元来、この事業では、地域の福祉施設の休日に場所を借りて遊びの場を作っていく地域密着型のスタイルを想定しており、地域の中で参加者同士の交流を深める目的も当初はあったが、新型コロナウイルス感染症の影響で地域福祉施設の利用が叶わないため、そのような状況に至っていない。

② えべつ1/1会

「鉄道によるまちづくりプロジェクト」



〈事業報告〉

1：エキテラ kids

江別の条丁目地域にある保育園、幼稚園などに JR 北海道公式の塗り絵を配布、回収して江別駅舎内に、令和4年7月から今年の1月まで、絵を入れ替えながら展示を行い、乗降客や関係者に公開した。

条丁目内の眞願寺にも展示協力を頂いた。塗り絵に協力してくれた園児には、この事業で作成した配線マップトートバッグをプレゼントした。

2：江別駅開業 140 周年記念事業

令和4年7月30日、31日の両日、江別駅正面横の屋外テントにおいて、我々の会員がデザインした「江別駅開業140周年記念」のラベルを貼った「瑞穂のしずく」を江別市内の酒店が販売した。

感染症対策は、手指消毒、マスク着用等。販売本数は168本である。

当初の予定では、大学ゼミの企画と時期を合わせることを計画し、打合わせをしていたが、新型コロナウイルス感染症の状況や学生の試験などの関係で日程が合わず、当事業は単独で行った。また、駅待合室の壁上方のスペースにお祝いのポスターを作成して、江別市内を走行する列車の写真も張り出した。さらに、計画時に相談した時は難色を示されていた JR 北海道のポスターも、駅入り口付近への展示が可能になり、開業140周年を祝う展示ができた。

3：鉄道の歴史を活かしたまちづくりフォーラム

江別市コミュニティセンターにおいて、江別駅の開業日の11月13日に合わせて、フォーラムを行った。鉄道保存協会から講師3人を招聘し、「歴史を活かしたまちづくりと地域活性化」「江別市内における鉄道遺産の現況について」「北海道の歴史的資産について」の講演を行い、来場者と意見交換会を行った。

感染症対策は、手指消毒、マスク着用等で、約40名の参加があった。

4：トートバッグの配布

当初の計画では、7月末の日本酒販売に間に合うスケジュールで作成する予定であったが、間に合わなかった。

正式に配布を開始したのは、塗り絵展示期間後、園児たちに絵を返却する時期であった。その後、「鉄道の歴史を活かしたまちづくりフォーラム」においては、資料を入れて来場者に配布し、好評を得た。フォーラムの講師からも、歴史が感じられる面白いデザインであると評価をいただいた。

2023年2月11日の図画の引き渡し式及びエキテラにおいて、残りのトートバッグにパンフレット等を入れて制作したすべてのトートバッグを配布した。

5：江別駅前横掲示図画の新調

当初の計画にはなかったが、江別駅140周年記念事業の準備で花壇整備を行った際に、花壇奥の倉庫壁面に貼られている特急列車の絵が劣化しているのを発見したため、当会で何かできることを考えた。

江別駅長と相談し、江別河川事務所が事業を引き受けていることになり、豊幌在住の作家の作品を飾ることになった。温かみのある楽しい作品であり、駅の利用者に楽しんでもらい、写真撮影によるまちの紹介効果も期待できる。なお、作品の引渡式は令和5年2月11日で、その際に関係者等にトートバッグに資料を入れて配付した。雪解けの後、壁面に展示される予定である。

6：4th エキテラ in2023

令和5年2月6日から準備を開始し、2月11日に点灯式を行った。

ジモ×ガク・市民有志・地域自治会の協力を得て例年よりもアイスクャンドルの個数を増やし、江別駅前を中心に900個のアイスクャンドルをともし約3,000人が来場した（エキテラ実行委員会調べ）。

今回は、この活動に賛同した河川事務所や市民活動団体などが、同日に条丁目地区内数カ所でアイスクャンドルを点灯した他、なぞ解きクイズ、スカイランタン、キッチンカーを用意して来場客に楽しんでもらった。弦楽四重奏「アンサンブルえべつ」によるサプライズ演奏もあり、盛況となった。残っているトートバッグにチラシや紹介文書を入れて来場者に配布し、次年度のPRとした。

【収支決算】

収入

協働のまちづくり事業の助成金：75,729円

支出

◎トートバッグ作成	68,090円
◎消毒液等	1,479円
◎掲示用のピン等	660円
◎ポスター・チラシに掛かる印刷製本費 デザインが間に合わず未作成	0円
◎140周年をお祝いするポスターに掛かる印刷製本費	5,500円

支出合計：75,729円

◆ 質疑応答

内海委員からのコメント

様々な事業をしていて素晴らしいと感じた。ただ、記念行事は一過性になってしまうので、継続できる事業展開をして欲しい。

エキテラについては、新聞にも掲載されていたが、近隣の住民も多く参加していて素晴らしく、定着して欲しいと思う。

自分はプレゼンテーション時に提案されていたグルメと川のテラスの企画に注目していたが、今年は実施されなかったようで、今後ぜひ実施して欲しい。

他団体との連携も著しく、今後の展開に期待が持てるので、ぜひ頑張ってもらいたい。

Q：栗田委員

多くの事業で、内容も素晴らしい。

江別駅140周年記念事業が、大学ゼミと連携できなかった理由を教えてください。

A：えべつ1/1会

当初はチュービングを一緒にする予定だったが、学生の試験日程や新型コロナウイルス感染症等の理由により、調整が叶わず、連携ができなかった。

Q：栗田委員

承知した。チュービングの代替の企画はできなかったのか。

A：えべつ1/1会

そこまで手が回らず、実施できなかった。

Q：栗田委員

ポスター・チラシのデザインが間に合わなかったということだが、何が課題だったのか。

A：えべつ1/1会

当初、様々な案があり、こだわっている内に時間が無くなってしまった。ラベルや駅舎内部に掲示したポスターは秀逸なデザインの物ができた。

Q：栗田委員

トートバッグの納品遅れも同一の理由か。

A：えべつ1/1会

こちらは、デザイン依頼先が作成に時間がかかったためであった。

Q：新田委員

デザインが凝っているのはいいが、事業予算として計上したものは実施しなければいけないので、ポスター類は予定通り作成して欲しかった。

作成予定だったのは、記念事業の報告資料の左上の物か。

A：えべつ1/1会

そちらではなく、その右側の奥手に写っている横型ポスターの印刷・掲示予定だった。こちらは1点だけ自前で作成した。



右) 江別駅にゆかりのある
鉄道写真を展示
左) えべつ1/1会でお祝いの
ポスターを作り駅に掲示



駅前で地元の特産品「瑞穂のしずく」に
4種類の記念ラベルを貼ってPR！！

製作した記念ラベル



Q：新田委員

来年度以降の展開について、考えを聞きたい。

A：えべつ1/1会

市民の方や関係者の方から、この事業をぜひ継続して欲しいということを再三言われている。

エキテラ以外は単年度で終了してしまうので、条丁目の三角公園を活用できるように、自治会と相談中である。また、江別駅前の花壇については、今後も整備の手伝いを続けていきたい。

先程の質問にあった河川イベントは、工事がこれからなので、河川整備完了後に実施していきたい。

Q：会場

自分は、このような団体がこういった華々しい活動をしていた事実を知らなかった。

北海道新聞を取っていないが、フェイスブックで情報収集を行い、まんまる新聞は確認している。情報発信の方法が偏っていたのではないか。

協働ねっとわーくのフェイスブックにも掲載がなかったと思う。

A：えべつ1/1会

ご指摘通りだと思う。今後は注意したい。

●コメンテーター総評

内海委員

えべつあそび場創造プロジェクトは、来年度から補助金をもらわないで頑張りたいというような力強いお話をいただいた。ぜひ、素晴らしいことなので、年間670名ほどの集客もあるので、これを活かして、地域の活性化、子どもたちの育成のためにも頑張っていたいただきたいと感じた。

それから、えべつ1/1会に関しては、素晴らしい着眼点で一生懸命やっていると感じた。スタッフは何人ぐらいいらっしゃるのかちょっと分からないが、ぜひ継続していけるような事業を展開していただいて、未永く江別市の活性化をしていただければと大いに期待している。

栗田委員

素晴らしい成果報告だった。2つのそれぞれ違う団体理念で地域に密着した活動をされていると思い、大変関心を寄せて聞いていた。

いずれの団体も“皆さんにどのように伝えていくか、どのように連携していくか”ということがとても重要で、それに進めていくために、団体内での合意形成をこれからますます磨きをかけていただければと思う。

新田委員

あそび場創造プロジェクトは、これから自立をして、活動を自分たちで広げていく勢いを感じた。

えべつ1/1会も本当に楽しそうな活動だと思った。10年後の江別駅開業150周年には1/1会のSLが見られるよう楽しみにしている。

私は、学生とボランティアや市民活動の勉強をしたり、話を聞いたりすることがよくあるが、中には、

アルバイトをしていれば時給が入るのに、無償でボランティアをしたり、手伝いにいかなければならないのか、本当に心から分からないと言っている3年生のゼミの子もいる。しかし、わからないということは、いろんな疑問を持っていると思うので、それだけでも一つ何か芽は持っていると思いながらよく話しているが、このように地域で一生懸命やってらっしゃる方々のお話を聞くと、お金がいくらとか時間がどのぐらいとかということではなく、目標をもって、目指す姿をはっきり頭に描き、そして、楽しくやっていることがすごく大事であり、それをいろいろな活動を通じて、若い人たちにも経験とか実践を通して伝えてくださっているのではないかと思うので、このような活動が江別市全体に広がっていくことは、大学に関わる者としても大変喜ばしく励まされると思っているので、今後とも、よろしく願いしたい。